
令和3（2021）年度 自己点検・評価書

兵庫大学・兵庫大学短期大学部

大学質保証委員会 委員長所見

この度、令和3（2021）年度事業計画について、「兵庫大学・兵庫大学短期大学部 内部質保証実施要領」に基づき、期末報告・最終評価を行った。

1. 自己点検・評価の意義

本学で行う自己点検・評価は、建学の精神、本学の目的及び各種方針等の具体化に向けた内部質保証の仕組みを構成する不可欠な要素である。内部質保証の目的は、本学の諸活動を自己点検・評価したうえで、その結果を明らかにするだけでなく、結果を検証して改善に結びつけることにある。

令和2（2020）年度に改定された内部質保証方針及び実施体制に基づき、全学的な自己点検・評価システムが再構築され、現在その下で自己点検・評価活動を進めている。本年度実施分は、新たな体制の下での2年目、また、「Vision 2024（第3次中期計画）」の2年目にあたる自己点検・評価でもある。昨年度の実施体制の中で析出された課題を確認しながら、改善活動を進めてきた。

昨年度に引き続き、この自己点検・評価が本学の維持・発展に大きく影響することを意識し、自己点検・評価を行った。

2. 評価結果について

新型コロナウイルス感染症が世界規模で拡大し、日常生活が多大な影響を受けた令和2（2020）年度に引き続き、令和3（2021）年度も、多くの変容を余儀なくされた1年であった。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を引き続き受けつつも、前年度の経験を踏まえ、with コロナを受入れ、各部局が工夫を凝らしながら事業計画を遂行していたことが窺えた。とりわけ、教育の質の保証や入口及び出口対策など、高等教育機関として最重要視しなければならない事業には、教職員が一丸となって「ハイブリッド型」の対応がなされた。

こうした困難な状況の下でも、事業計画の遂行にご尽力していただいたことに感謝の意を表したい。

I 建学の精神の浸透と実践

新型コロナウイルス感染症拡大のため、計画どおりの実施が困難となった宗教行事については、実施方法を変更する等、当初の目的を達成するための工夫が施された。

共通教育科目においては後述の通り、建学の精神である「和」を教育内容に反映させることについて大きな前進がみられた。今後は、専門教育科目についても「和」の浸透方策を検討されたい。

他方、「和」の解釈が統一されていないことが課題として提示されている。学園創立 100 周年記念事業及び陸グランドデザイン 2030 を企画・推進する機会も活用しながら、建学の精神「和」の解釈について、学園全体で協議を進めていく。

II 建学の精神に基づく人材の育成

宗教行事については前述のとおりである。

共通教育科目のカリキュラム整備に際して、シラバスへの「建学の精神」に関する記述の記載率が昨年度から向上したことは、大きな前進である。「I 建学の精神の浸透と実践」でも触れた通り、「和」の解釈の不統一を解消するとともに、建学の精神への理解・浸透を進めていく。

また学生の希望に沿った質の高い出口保証については、概ね成果が出ている。多大な制限がある中で、様々な工夫がなされ、実効性の高い試験対策が行われる等、熱意ある教育の成果が結果に表れている。

残念ながら一部、思うような結果が得られなかった計画もあったが、問題の所在は既に確認済である。課題を学科内で共有し、改善を図るとともに、次年度は目標を確実に達成できるよう、継続的な指導を望む。

III 教育の質保証改革の推進

教学マネジメントの確立に向けた取り組みを加速するために不可欠となる HUsystem の本格的な運用がスタートした。各学科・部署の作業効率が向上し、教育力が高められることを期待する。また改定された「教学アセスメントポリシー」を本格的に始動させ、教育改善が図られることを望む。

教職員 FD・SD 研修会及び教職員カフェについては、教学アセスメントに沿ったテーマが設定されるなど、目的達成に向け努力されていることを確認した。これらの計画の遂行は、「Vision 2024（第3次中期計画）」における質保証の観点から重要な事業となる。全学レベルでの教育改革を加速化したい。

教育学部の設置準備は、計画通りに推進していることが確認された。「Vision 2024（第3次中期計画）」が掲げる当該事業を含む「教員養成課程等の総合的な見直し」については、学園創立 100 周年記念事業及び陸グランドデザイン 2030 を構成する要素としても検討を進めていく。

教育環境の整備については、概ね計画通りに推進していることが窺えるが、学生にとってより一層安心・安全で学びやすい環境作りのための整備が引き続き行われることを望む。

IV 研究水準及び研究成果の向上

今年度より研究支援課を配置して体制を整備し、工夫を重ねながら事業は進められているが、論文数や科研費申請・獲得数は十分であるとはいえない。論文等生産性の向上を含む研究活動活性化を重要課題と認識し、支援対策を強化することが望まれる。

研究学会の設立と学術集会の開催については、「日本地域共生ヘルスケア学会」が創設され、概ね計画通りに推進していることが窺えた。大学院が研究基盤の形成を担う機関へと発展するよう期待する。

V 高大接続の強化

附属校、連携協定校との連携が進められていることが確認できた。附属校では、附属校教員の意識改革を図ることや、探究学習の推進について連携を一層強化すべきことなど、課題も残されており、双方の理解、協力体制の構築を望む。

連携協定校については、探究学習パッケージを実施した高校で、生徒の探究学習レベルが向上しており、高大接続の深化が確認できた。また、高等学校単独では難しい専門分野に対する支援をパッケージ化すべきことは既に課題認識として捉えている。今後は、学科の特性を活かし、個々の高校に応じた持続可能な教育連携を構築していただきたい。

VI ブランド力の強化

with コロナに対応したハイブリッド型の募集活動を展開し、高校生との接触機会を増やすなどの早期募集に努めた。また、公式サイトや SNS を中心に、高校生が求める情報を積極的に発信し、戦略的に募集活動を展開した。しかしながら、令和 3（2021）年度は入学定員充足には至らなかった。各学科とも危機感を抱き、定員確保を重点課題とし、募集活動を更に強化することを望む。とりわけ、令和 5（2023）年度開設の教育学部は、何としてでも入学定員を確保しなければならないと考える。

同窓会との連携強化は、コロナ禍の影響もあるが、著しく計画の進捗に遅れが生じており、連携関係の構築・強化は急務である。

全ての計画の推進が本学のブランド力の強化へつながることを認識し、教職員一丸となって目標達成に向け計画を進めていただくことを強く望む。

VII 地域社会との連携強化

地域プラットフォーム事業の一環として、文部科学省の「就職転職支援のための大学リカレント教育推進事業」に採択され、実施に至ったことは大きな成果であった。6 事業全てを実施したのが全国でも本学のみであったこと、大学コンソーシアムひょうご神戸のリカレントフォーラムで他大学とともに事例発表を行ったことも評価すべきである。

課題は、必須とされた令和3年度中の就職数が、想定を下回る結果となったことであるが、その原因は既に検証済である。

その他地域連携事業は前進しつつあるが、プラットフォーム事業については、緒に就いたばかりであり、令和4(2022)年度には、体制構築及びさらなる事業の質の深化が図られることを望む。

VIII 経営・ガバナンスの強化

組織体制の確立及び人事考課の改正において、未着手の計画が見受けられる。課題を把握した上で、計画推進を早期着手し、改善を要する事業への対応を強く求める。

内部質保証の実効化においては、概ね計画通り進んでいる。令和5(2023)年度の認証評価受審に向け、着実に準備が進められていることも確認できた。

他方で、寄付金事業の展開においては、計画の推進が難航していることが窺える。本計画は「学園創立100周年記念事業」としても重要な計画であることから、今後の取組みに改善を望みたい。

3. 総括

令和3(2021)年度の事業計画は、「Vision 2024(第3次中期計画)」の2年目にあたる。「Vision 2024(第3次中期計画)」では、特に「教育の中身」と「教学改革」を重点的に取り組むこととしており、これらの成果が中期計画の達成はもとより、本学の将来に大きな影響を与えることは言うまでもない。

「5年後の大学像」の実現に向け、初年度に実施した事業内容をさらに強化し、多くの制約がある中で全教職員が諸課題の解決のため、工夫を重ね成果を出していただいたことに感謝したい。2年目を終え、過去の事業計画を振り返り、新たな課題を把握した上で、改善方策を図り、令和4(2022)年度事業に繋げていただきたい。

また、令和4(2022)年度は、陸グランドデザイン2030の体制構築作業が本格化することから、中長期的な発想に基づき、学園発展に向けた諸事業を進めていくことが必要になる。全教職員にご協力をお願いしたい。

令和4年5月25日

兵庫大学・兵庫大学短期大学部

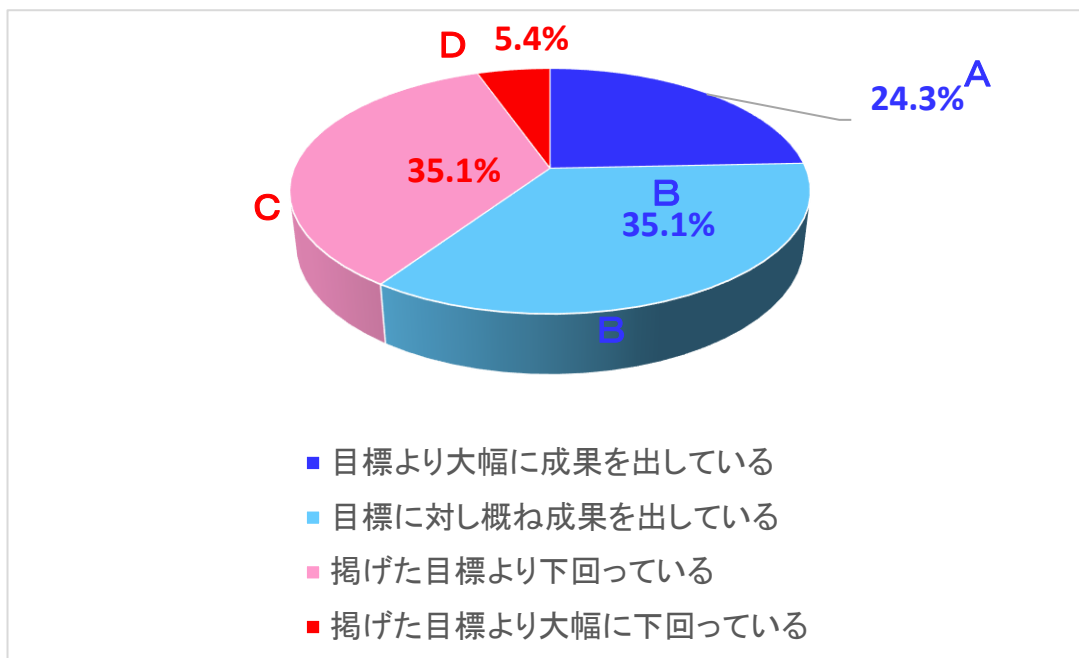
学長 河野 真

令和3(2021)年度事業計画評価結果

1. 評価結果

評価の基準	標語	評価結果	評価結果
目標より大幅に成果を出している	A	9	24.3%
目標に対し概ね成果を出している	B	13	35.1%
掲げた目標より下回っている	C	13	35.1%
掲げた目標より大幅に下回っている	D	2	5.4%

2. 評価結果の割合



令和3（2021）年度事業計画 期末評価について

戦略目標	I-1 建学の精神の理解	責任者	学長	関連部署等	全学部全学科、大学院、教育学部、FD・SDオフィス、宗教教育推進委員会
No	KPI	改善活動の要否	改善指示事項	改善指示事項	改善指示事項
①	建学の精神の醸成のためのシラバスへの反映	評価	改善指示事項	教育改善推進会議	1
	評価理由等	C	改善指示事項	学科の専門的教育に「建学の精神」を浸透させるためには、建学の精神について、ある程度、全学的な考え方の統一をはかる必要がある。そのうえで、各学科で「建学の精神」をどのように教育に活かすか検討を促すような施策を検討すること。	
	(評価した点)		各組織	全学部全学科、教育学部	
	[留意事項]		改善指示事項	具体的施策に記載があった専門科目への記載については進んでいない。共通教育科目と比べ専門科目では、教育内容が実践的であることから、一律に「建学の精神」を反映させることに困難があったと思われる。単編にシラバスへ「建学の精神」の文言を加えるという方法に限定せず、幅広く「建学の精神」を専門科目に浸透させることを、教育改善推進会議等や関係各位と連携し、検討すること。	
	(今後への期待)		改善指示事項	教育改善推進会議等や関係各位と連携し、検討すること。	
No	KPI	改善活動の要否	改善指示事項	改善指示事項	2
②	建学の精神の視覚訴求機会の増加	評価	改善指示事項	改善指示事項	
	評価理由等	A	改善指示事項		
	(評価した点)		各組織		
	[留意事項]		改善指示事項		
	(今後への期待)		改善指示事項		
No	KPI	改善活動の要否	改善指示事項	改善指示事項	3
③	建学の精神関連科目のテーマ及び方向性の統一	評価	改善指示事項	教育改善推進会議	
	評価理由等	C	改善指示事項	I-1①と同	
	(評価した点)		各組織	全学部全学科、教育学部	
	[留意事項]		改善指示事項	I-1①と同	
	(今後への期待)		改善指示事項		

戦略目標	II-1 建学の精神の浸透と教育課程の再構築	責任者	副学長 (教育担当)	関連部署等	全学部全学科、大学院、教育学部（教務課）、宗教教育推進委員会
No	KPI	改善活動の要否	改善指示事項	改善指示事項	改善指示事項
①	共通教育科目のカリキュラム整備	評価	改善指示事項	改善指示事項	4
	評価理由等	B	改善指示事項		
	(評価した点)		各組織		
	[留意事項]		改善指示事項		
	(今後への期待)		改善指示事項		

No	KPI	評価	改善活動の要否	改善指示事項
②	建学の精神に触れる機会の増加	B		
	評価理由等			
	(評価した点)		定例礼拝や学教セミナーをオンライン配信・対面開催のハイブリッド形式で実施するなど、コロナ禍においても精神に触れる機会の提供を継続したこと。	
	[留意事項]		—	
	(今後への期待)		学生の卒業時調査における建学の精神の理解100%に向けて引き続き施策を展開していただきたい。	

戦路目標	II-2	「ありがたうのプロフェッショナル」の育成	責任者	関連部署等	全学部全学科
No	KPI	評価	改善活動の要否	改善指示事項	
B	公務員試験合格者 5% (44人中2人以上) (一部上場・優良企業就職者20%)	B	要		
	現代ビジネス学科				
	評価理由等				
	(評価した点)		就職希望者41名のうち、企業就職39名(うち大企業22名 56%)、公務員3名 7.3%と数値上の目標は達成した。4年生は、3者面談を3回実施し、就職支援を行ったこと。		
	[留意事項]		大企業が一階上場・優良企業に該当するかが不明である。学科として、公務員志望の学生に対する支援は十分なされているのかが不明である。		
	(今後への期待)		復活をしない不稼働の学生に対して、学生支援課と連携して復活支援を行うこと。2022年からの市場区分の再編もあり、目標企業を明確にしていきたい。中途退学率は20.3%と高率であり依然課題である。中途退学率の低減に向けて、1年次生から面談システムを効果的に活用していくことを期待する。		
				現代ビジネス学部	
				副学長 (教育担当)	

No	KPI	評価	改善活動の要否	改善指示事項
N	管理栄養士国家試験合格者 90%以上	A		
	栄養マネジメント学科			
	評価理由等			
	(評価した点)		国家試験合格者は90.9%で、前年度より大幅に上昇し、目標を達成したこと。字力把握とモチベーション刺激を目的に毎月試験を実施し、各試験後にはチューター面談をするなどきめ細い対応ができる体制づくりをしたこと。	
	[留意事項]		全国平均65.1%を大幅に上回ったものの、新卒合格率92.9%には若干到達できていない。	
	(今後への期待)		目標値達成を継続することと、国試全国平均合格者率に加えて新卒合格者率を上回ることを期待する。中途退学率は23.3%と依然高率である。段階的に低減するために低学年から面談システムをはじめとした相談・支援対策を強化していただきたい。	

No	KPI	評価	改善活動の要否	改善指示事項
H	教員採用試験合格者 3人 (通年度生も含む) (保健体育教諭2人、養護教諭1人)	B		
	健康システム学科			
	評価理由等			
	(評価した点)		保健体育(中学)の教員採用試験において、既卒者2名が合格したが、養護教諭の採用試験合格者は新卒・既卒者ともいなかった。1次試験では、上記2名を含めて7名が合格し、内新卒は2名だった。	
	[留意事項]		—	
	(今後への期待)		対策講座の常駐スタッフ(養護・保健)による支援を今年度より開始したことから、教員対策支援の強化や、既卒の教職従事者(講師や代講教員など)の把握を行っていただきたい。スポーツ人材の就業先の拡大についても検討を期待する。中途退学率は21.6%と依然高率である。1年次生から面談システムを活用してきめ細かい相談支援を行うことを期待する。	

No	KPI	改善活動の要否	改善指示事項
K	看護師国家試験合格率 93%以上	B	改善会議体
	保健師国家試験合格率 90%以上		改善指示事項
	行政保健師職合格 2名		各組織
	看護学科		改善指示事項
	評価理由等		
(評価した点)	看護師国家試験合格率は94.9%で、目標を上回ったが、保健師国家試験合格率は86.7%で目標に到達しなかった。保健師は3名輩出した。また、中途退学者は計6名、中退率 5.8%であった。		
[留意事項]			
(今後への期待)	看護師国試合格率において、全国の新卒平均合格率を上回ることを期待する。高学年の中退者は単位未修得など学修不良者が多いことから、低学年からの修学支援や相談を強化することを期待する。		

No	KPI	改善活動の要否	改善指示事項
S	社会福祉士国家試験合格率 70%	A	改善会議体
	精神保健福祉士国家試験合格率 70%		改善指示事項
	公務員試験合格者 1名		各組織
	社会福祉学科		改善指示事項
	評価理由等		
(評価した点)	社会福祉士国家試験合格率75%で、全国平均及び新卒平均を大幅に上回ったこと。精神保健福祉士国家試験合格率は100%、また、公務員試験には22名が合格した。いずれも目標を大きく上回る結果である。また、中途退学者は4.2%で、目標の5%以下であった。		
[留意事項]			
(今後への期待)	国家試験合格率を維持し、その成果を学生募集に反映されることを期待する。		

No	KPI	改善活動の要否	改善指示事項
Y	公務員(公立園)合格者数 7名	D	改善会議体
	子ども福祉学科		改善指示事項
	公務員(公立園)採用試験に2名が合格したが、目標数には到達していない。		各組織
	公務員(公立園)採用試験に2名が合格したが、目標数には到達していない。		改善指示事項
	評価理由等		
(評価した点)	公務員(公立園)採用試験に2名が合格したが、目標数には到達していない。		
[留意事項]			
(今後への期待)	3年生(次年度受験)は14名が公立園を希望しているため、意欲を維持させて、合格に向けた支援を行うことを期待する。中退率は母数が少ないこともあり、1名の退学者が大きく影響するが、きめ細かい支援で目標値以下になることを期待する。		

No	KPI	改善活動の要否	改善指示事項
C	公務員(公立園)合格者数 10名以上	A	改善会議体
	保育科第一部・第三部		改善指示事項
	公務員(公立園)合格者は、計14名で目標数の10名を大幅に上回る結果を出したこと。		各組織
	公務員(公立園)合格者は、計14名で目標数の10名を大幅に上回る結果を出したこと。		改善指示事項
	評価理由等		
(評価した点)	公務員(公立園)合格者は、計14名で目標数の10名を大幅に上回る結果を出したこと。		
[留意事項]			
(今後への期待)	令和4年度は「サンキュー」導入の2年目にあたり、有効活用とともに成果の確認を行っていただきたい。中途退学者は全体では10名で6.0%だが、第三部に対し第一回では8.8%である。入学時からの相談・支援等の対策強化を期待する。		

No	KPI	改善活動の要否	改善指示事項
④	学生面談システムの確立	評価 B	改善指示事項
	評価理由等		改善指示事項
	(評価した点)	1年生を対象に4回、2年生以上は半期ごとに1回の年間を通した面談計画をたて、実施した。面談の資料となる「学びのカルテ」の様式を確定し発行した。教学説明会(9月)で全学的な理解を促した。年度末にはアンケート調査により、面談システムの課題を洗い出し、次年度に向けて調整を行った。	各組織
	[留意事項]	教員によって面談の実施内容に差が見られる。全教員がある一定以上のレベルで面談が行われるような取り組みが必要である。	改善指示事項
	(今後への期待)	退学の減少には直ちに反映されたいと思われるが、次年度以降、その点も注視し、面談システムの見直しを随時行っていくことを期待する。	

戦略目標	III-1 教学マネジメントの確立	責任者	副学長 (教育担当)	関連部署等	FD・SDオフィス、IR推進室、全学部全学科、教育学部(教務課)、高等教育研究センター
No	① 教学アセスメントの実効化	改善活動の要否	改善指示事項	改善指示事項	
	評価理由等	評価 B	改善指示事項	改善指示事項	
	(評価した点)	アセスメントの方法や指標について、教育改革推進会議で見直しをはかり、アセスメント実施の目的が合ったこと。アセスメントと教学マネジメントとの関わりが具体的に整理されたこと。大学運営会議(2月9日)に上程したのち、教学説明会(3月16日)を行い、全学的に周知を行った。	各組織		
	[留意事項]	教職員による主体的実践のため、連携協力体制の強化を図る。	改善指示事項		
	(今後への期待)	計画通りアセスメントを行い、PDCAサイクルに基づき更なる教育改革、教育改善を期待する。	改善指示事項		

No	KPI	改善活動の要否	改善指示事項
②	客観的かつ厳格な成績評価への取り組み	評価 C	改善指示事項
	評価理由等		教育改善推進会議
	(評価した点)	FD・SD研修会においては、ルーブリック評価の導入や実践例について共有したり、兵大グッド・プラクティス賞受賞者による授業に関する講演などを行ったこと。また、教職員カフェにおいて、学生とのかわりに関しグループワークを行った。一方、客観的で厳格な成績評価に関する具体的方策については、教育改革推進会議のもと、ワーキンググループで検討する準備が整った。しかし、具体的な取り組みは十分とは言えない。	各組織
	[留意事項]		改善指示事項
	(今後への期待)	FD・SD活動は、教育改革を進める上で重要な役割を担うと考えられることから、その内容について、教育改革推進会議や関係部署とのさらなる連携の強化を期待する。	改善指示事項

No	KPI	改善活動の要否	改善指示事項
③	HiSystemの試験運用の完了	評価 A	改善指示事項
	評価理由等		改善指示事項
	(評価した点)	2020年度よりプロジェクト会議を通して、HiSystemの基本的仕様の合意及び要望・改善の議論を進め、2022年度からの本格運用に耐え得るシステムとして一定の完成をみることで、予定より早く学内で点検していたデータの10分以内、10分以内に関してはデータベース化した。具体的活用について、いくつかの分析とともに報告を行ったこと。	各組織
	[留意事項]		改善指示事項
	(今後への期待)	HiSystem管理者マニュアル、ユーザーマニュアルの作成、HiSystem本格運用に伴う各部署の入力内容及び責任体制の整理を行うことを期待する。 国試対策等のデータ集積と分析活用など、教学IRとしてHiSystemの活用幅を広げるため、学科との連携をいっそう強化して進めることを期待する。	改善指示事項

戦路目標	III-2	時代のニーズに応じた学部等の改組・編成	責任者	学長	関連部署等	全学部全学科、大学院、学長室、教学部、入学部、エクスプレッション・カレッジ	ページ数
No		KPI	評価	改善活動の要否		改善指示事項	
④	教員養成課程強化のための教育学部の設置準備		A				23
	(評価した点)	監督官庁等に対して、教育学科設置に係る「届出書」「取容定員増認可申請書」「教職課程申請書」「保育士指定申請」等の作成及び提出を無事に終えることができたこと。		改善会議体			
	[留意事項]	—		改善指示事項			
	(今後への期待)	令和5年4月の開設に向けて、引き続き、諸準備や学内外の調整を進めていきたい。		各組織			
				改善指示事項			

戦路目標	III-3	教育・学生支援環境の整備・充実	責任者	学長	関連部署等	事務部、学修基盤センター	ページ数
No		KPI	評価	改善活動の要否		改善指示事項	
⑤	HUMANS2021の稼働に向けた準備		C				24
	(評価した点)	BYODを踏まえたコンピュータ環境の全学的な検討が行われ、一定の方向性は見出したものの、その後の学内調整が行われていない。		改善会議体	業務推進会議		
	[留意事項]	—		改善指示事項	学修基盤センターの報告書を踏まえて、実施に至るまでのWork Breakdown Structureを作成し、それぞれの工程に關する具体の計画作成を関連部署に対して指示すること。		
	(今後への期待)	—		各組織	学修基盤センター		
				改善指示事項	協議が進み一定の方向性は見出したが、その後の学内調整が行われていない。令和5年度稼働に向けた学内外の調整を早急に行う必要がある。また、同時に学内ネットワーク環境の整備についても検討を急ぐこと。		
No		KPI	評価	改善活動の要否		改善指示事項	
⑥	施設・設備の総点検と年度別整備計画の完成		C				25
	(評価した点)	一部の建物については耐震診断が実施されたものの、耐震診断が終了していない建物があり、年度別整備計画の完成には至っていない。		改善会議体			
	[留意事項]	—		改善指示事項			
	(今後への期待)	—		各組織	事務局 (管財課)		
				改善指示事項	「キャンパスプラン2030」(仮称)策定に向けて、キャンパス全体の建物及び各設備等について、耐震補強計画も含めた整備計画を策定し報告を行うこと。		

戦路目標	III-4	グローバル化・ダイバーシティ化の推進	責任者	副学長 (研究・社会連携担当)	関連部署等	全学部全学科、教学部 (学生支援課、教務課)、管財課、国際化推進委員会	ページ数
No		KPI	評価	改善活動の要否		改善指示事項	
⑦	留学センター (仮称) 設置に向けた準備		C				26
	(評価した点)	・留学生・国際交流センター (仮称) 設置について、その意義や業務に関する素案の作成に至っているものの、実現のための部・課との調整が未調整であったこと。 ・対外大学との連携はセンターの事業の一環である。編入生の獲得を含む、山西同文技術学院との調整を進めているものの、最終的な合意に至っていない。		改善会議体	業務推進会議、大学運営会議、教育改革推進会議		
	[留意事項]	COVID-19の感染拡大もあり、内向き志向が強くなり、国際交流、留学生確保に関わるセンター設置の緊急性が薄れていた懸念があり、積極的に進める方策を検討する必要がある。		改善指示事項	・留学生・国際交流センターの設置素案を踏まえ、各学部、入学部、教学部、事務局との業務分担及び、情報の共有、連携の方法を策定すること。 ・大学における留学生の必要性、海外体験の重要性については教育改革推進会議で検討を行うこと。		
	(今後への期待)	・センターの設置に向けて関係機関との調整を進めることを期待する。 ・対外大学等との連携を通し、留学生の確保に結びつけること、さらには現地入学者の確保について期待する。		各組織			
				改善指示事項			

No	KPI	改善活動の要否	評価	改善指示事項
⑧	障がい学生支援オフィス（仮称）の設置及び運用 評価理由等		A	
	（評価した点） 設置後1年、各学科と連携しながら精力的な学生支援にあたり、教職員の意識変化などをもちとすなど、当初の目的以上の成果を上げたこと。 令和4年1月未までの支援・相談した学生数46名、面談回数13回、教職員94回、オフィス主催の活動として、学生サポーター養成研修や障がい者雇用相談会を実施、学外の連携機関との連絡調整も積極的にを行い、学生のための支援体制を整えた。 障がい学生支援オフィスに関する調査（令和4年2月実施）では、多くのプラス評価を得るなど、オフィス設置の成果を上げることができた。			
	〔留意事項〕 （今後への期待） 全学生が学びやすくなるようユニバーサル教育を推進していくこと。学内における合理的配慮を可視化・常態化し、ヒューマンケアの実践力のつく教育機関としての教育実践の一翼を担うことを期待する。			
				改善会議体 改善指示事項 各組織 改善指示事項

戦略目標	IV-1 研究生産性の向上	責任者	副学長 （研究・社会連携担当）	関連部署等	研究支援課、高等教育研究センター
No	KPI	改善活動の要否	評価	改善指示事項	
①	研究生産性の計算方法の確立のための現状把握と検証体制の構築 評価理由等		C	研究推進会議 既に、全教員に対し3年以内にファーストオプサーでの1本以上の論文作成を指示する文書を出しており、今後、具体的に実行する方法を検討すること。（案：学部長と副学長で協議の上、最近、論文作成が十分にない教員に対する個別の指導など）	
	（評価した点） ・生産性の引き上げという目的のためには、アウトプットの引き上げを優先課題としなければならぬことが明らかとなった。 上記を踏まえ、論文作成の本数を拡大するために研究推進会議等で議論を踏まえ、指示を出したこと、そして業績の把握を容易にするために業績プロの更新の合意を得たことは評価できる。			研究支援課	
	〔留意事項〕 教員による論文本数が少なく、低下する傾向にあり、課題の解決に至るには教員に強く働きかけることが必要である。			・早期に業績プロの導入を行い、現行システムからの移行を進め、教員への広報を徹底すること。 ・紀要の電子化について、検討に入り、紀要の出版回数が増えるのが、検討を行うこと。	
	（今後への期待）				
No	KPI	改善活動の要否	評価	改善指示事項	
②	研究活動活性化のための検討と実施 評価理由等		C		
	（評価した点） 当初想定した事業を全て実施しているものの、科研費採択数、申請数ともに低下している。			研究支援課	
	〔留意事項〕 採択者は申請時の本学の支援策であるレビュー制度を利用しておらず、レビュー制度の意義に関する課題が残った。			他の大学の事例の取集（例えば、科研費申請を義務化している大学の状況等）を行い、研究力強化策を検討、報告すること。	
	（今後への期待）				

No	KPI	改善活動の要否	評価	改善指示事項
②	研究活動活性化のための検討と実施 評価理由等		C	
	（評価した点） 当初想定した事業を全て実施しているものの、科研費採択数、申請数ともに低下している。			研究支援課
	〔留意事項〕 採択者は申請時の本学の支援策であるレビュー制度を利用しておらず、レビュー制度の意義に関する課題が残った。			他の大学の事例の取集（例えば、科研費申請を義務化している大学の状況等）を行い、研究力強化策を検討、報告すること。
	（今後への期待）			

戦略目標	IV-3	「知」の集積拠点としての研究基盤の形成	責任者	副学長 (研究・社会連携担当)	関連部署等	看護学研究科、学長室	ページ数
No		KPI	評価	改善活動の要否	改善指示事項		
③	研究学会の設立と学術集会の開催	評価理由等	B	改善指示事項	改善指示事項		
(評価した点)		<ul style="list-style-type: none"> 5月に日本地域共生ヘルスケア学会を設立することができ、3月には最初の学術集会、及び学術雑誌の発行を実現することができたこと。また雑誌には本学の修士学生の論文発表も行い、看護学研究科の高度化に寄与した。 副次的効果として、地域の医療機関の関係者などと学会を通して関係を強化することができた。 	各組織				
〔留意事項〕		学会員の拡大が大きな課題である。	改善指示事項				
(今後への期待)		—	改善指示事項				

戦略目標	V-1	附属校・園との連携強化	責任者	学長	関連部署等	全学部、教学部、入学部	ページ数
No		KPI	評価	改善活動の要否	改善指示事項		
①	附属校とのSDGsを盛り込んだ探求学習の教育連携強化	評価理由等	B	改善指示事項	改善指示事項		
(評価した点)		看護医療コースの生徒対象として、探求学習を実施することができたこと。受講者の反応は大変よく、事業については今後も継続すべき内容と考える。	各組織				
〔留意事項〕		カリキュラムに組み込むなど、附属校側の対応が十分ではなく、また高大接続に関する意義についての理解も十分得られていない懸念がある。担当者間の協議や協力を円滑にする方法を検討する必要がある。	改善指示事項				
(今後への期待)		—	改善指示事項				

戦略目標	V-2	高等学校との連携強化	責任者	副学長 (教育担当)	関連部署等	入学部、社会連携オフィス	ページ数
No		KPI	評価	改善活動の要否	改善指示事項		
②	連携協定校との探求学習活動のパッケージ化	評価理由等	A	改善指示事項	改善指示事項		
(評価した点)		<ul style="list-style-type: none"> アカデミックレクチャーなど従前からの仕組みの活用も含め、複数の高等学校を対象として事業を実施したこと。 本学の教員を中心とするSDGs教育パッケージを作成し、附属校に展開するためにも連携校で実現する、という当初の目的の一部果たすことができたこと。 	各組織				
〔留意事項〕		当該事業では「総合的な探究の時間」についての教諭への研修を兼ねての授業の実施という、高等学校との連携を前提としており、この点については理解が深まったものの、高等学校側のニーズはそれ以外にも拡散している。	改善指示事項				
(今後への期待)		高等学校のニーズと兵庫大学の学科とを結び事で、本学のそれぞれの顔をつかりと認識していただくことが可能となる。そのための方策を今後検討いただきたい。	改善指示事項				

戦略目標	VI-1 収容定員の充足	責任者	副学長 (教育担当)	関連部署等	全学部全学科、全部署 (入学部)	ページ数
No	KPI	改善活動の要否	改善活動の要否	改善指示事項	改善指示事項	89
①	入学定員の確保 入学定員の1.1倍以上	評価	C	改善会議体 改善指示事項	改善指示事項	
		評価理由等				
(評価した点)		多くの広報手段を駆使し、志願者数は昨年度より上回るなど、一定の成果をみることであったが、看護学部を除き定員充足には至らなかった。				
〔留意事項〕		接触広報として来校型OC (オープンキャンパス) をはじめ進路探索塾の実施や出張OCなど積極的な実施し、ハイブリッド型の学生募集活動を展開した。		全学部・全学科、入学部、教育学部、IR推進室		
(今後への期待)		入試改革、コロナ禍、新学習指導要領 (探究学習が進む) 中、高校生の進学傾向にも変化が見られること。 入試の総括を踏まえ、時代の変化を鑑み、中長期的な入試戦略を考え実施することを期待する。	改善指示事項	各組織	大学の学修の成果 (正課、正課外、その他) をわかりやすく可視化し、受験生に発信していくこと。 大学の魅力のアピールで、競合大学との差別化を図ること。	

戦略目標	VI-2 USR (大学の社会的責任) 活動による信頼の確保	責任者	学長	関連部署等	全学部全学科、全部署 (学長室)	ページ数
No	KPI	改善活動の要否	改善活動の要否	改善指示事項	改善指示事項	91
②	公式サイトによる発信力の強化	評価	B	改善会議体 改善指示事項	改善指示事項	
		評価理由等				
(評価した点)		公式サイトの改修及び新規ページの作成を行うなど、本学に対する訴求力の向上を進めたこと。				
〔留意事項〕		学料が案外高いことを発信するための工夫を検討することを期待する。		各組織		
(今後への期待)		学園周年事業等と連動した活動を展開しさらにブラッシュアップした発信力の強化と訴求力の向上を進めていただきたい。	改善指示事項	各組織		

戦略目標	VI-3 SDGsの推進	責任者	副学長 (研究・社会連携担当)	関連部署等	全学部全学科、大学院、SDGs推進委員会	ページ数
No	KPI	改善活動の要否	改善活動の要否	改善指示事項	改善指示事項	92
③	SDGs計画の策定及び推進	評価	B	改善会議体 改善指示事項	改善指示事項	
		評価理由等				
(評価した点)		各学科、部を構成する若手教職員を中心に、短期間で兵庫大学SDGs計画を立案したこと。				
〔留意事項〕		—		各組織		
(今後への期待)		実現に向けた体制づくりを進めていただきたい。	改善指示事項	各組織		

戦略目標	VI-4 ステークホルダーとの信頼関係の醸成	責任者	学長	関連部署等	事務部、入学部、学長室、社会連携オフィス	ページ数
No	KPI	改善活動の要否	改善活動の要否	改善指示事項	改善指示事項	133
④	同窓会支援体制の充実・強化	評価	C	改善会議体 改善指示事項	改善指示事項	
		評価理由等				
(評価した点)		連携強化を模索しながらも、コロナの影響もあり、具体的な施策は実施されていない。				
〔留意事項〕		—		各組織	事務局 (総務課)	
(今後への期待)		—	改善指示事項	各組織	各後援団体との連携について、100周年事業とも連動しながら、具体的内容を協議し可視化して進めていくこと。	

戦略目標	VII-1	社会的ニーズに対応したリカレント教育の提供	責任者	副学長 (研究・社会連携担当)	関連部署等	エクステンション・カレッジ	ページ数 134
No	KPI		責任者	副学長 (研究・社会連携担当)	関連部署等	改善指示事項	ページ数
①	履修証明プログラムの導入、リカレント教育プログラムの導入、充実	評価 A	改善活動の要否	改善指示事項	改善指示事項	改善指示事項	134
			評価理由等				
(評価した点)			・予定の事業であるリカレントコース、明石市との連携による保育士キャリアアップ事業などを引き続き実施したこと。 ・新たに文科省事業「就職 転職支援のための大学リカレント教育推進事業」6事業を展開したこと。 ・6事業の展開は全国でも本学だけであり、また大学コンソーシアムひょうご神戸のリカレントプログラムにも、神戸大学、園田学園女子大学と並んで事例として発表するなど、生涯学習の兵庫大学をアピールすることができた。 ・明石市から新たに子育て支援に関するリカレント講座の受託を得て実施することができた。 ・文科省の幼稚園教師の上述講習について申請、採択され実施することができた。				
[留意事項]			履修証明プログラム事業は文科省の政策決定により、令和3年度で終了。これに代わる方法を今後早期に検討する必要がある。				
(今後への期待)			幼稚園の上述講習、明石市からの受託事業など、幼児教育、保育のリカレント事業については、令和5年度設置の教育学部に移管することで、学生への学習と連携してのリカレントという高い効果が得られる他、配属した教員の効率的な活用を期待する。この点を踏まえ早期に教育学部担当者との協議を進めることを期待する。				

戦略目標	VII-2	連携協定先とのさらなる連携強化	責任者	副学長 (研究・社会連携担当)	関連部署等	社会連携オフィス	ページ数 135
No	KPI		責任者	副学長 (研究・社会連携担当)	関連部署等	改善指示事項	ページ数
②	地域プラットフォーム事業実施に向けた体制構築	評価 C	改善活動の要否	改善指示事項	改善指示事項	改善指示事項	135
			評価理由等				
(評価した点)			播磨インターンシップコンソーシアムとの連携など地域プラットフォームを前掲とした連携は進んでいる。また地域プラットフォーム事業の一環として、文部科学省「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業」に申請し、採択された。				
[留意事項]			条件整備、環境整備を進めているものの、組織化という点では遅れている。組織化する場合、プラットフォームに必要な予算、人員などの確保ができていない。				
(今後への期待)							

戦略目標	VII-3	地域との連携による教育・研究支援	責任者	副学長 (研究・社会連携担当)	関連部署等	全学部全学科	ページ数 136
No	KPI		責任者	副学長 (研究・社会連携担当)	関連部署等	改善指示事項	ページ数
③	PBL型授業の推進	評価 C	改善活動の要否	改善指示事項	改善指示事項	改善指示事項	136
			評価理由等				
(評価した点)			PBL事業を実施し9団体のエンブレットリーがあり、新たに留学生の団体も応募するなど、広がりが見えていくこと。				
[留意事項]			本事業はPBL型とされる授業の評価が他よりも高くなることを実証することにあり、学生からの評価に關わるIR推進室、ルーブリックの作成などに關わるFD・SD推進室との連携が十分ではなく、その把握はできていない。				
(今後への期待)			PBL教育を本学の強みとすることは学生募集にも有効である。特に、看護、福祉などヒューマンサービス分野の人材育成においては地域との関わりがより重視されており、PBL型授業で学ぶことが成績を引き上げることの検証の可能性について検討いただきたい。				

戦略目標	VII-1	機動的な意思決定を可能とする組織体制の確立	責任者	学長	関連部署等	総務課、学長室
No	KPI		改善活動の要否	改善会議体	改善指示事項	
①	組織のスリム化に向けた原案作成	評価	D	改善指示事項	業務推進会議 大学改革の方針を明確にしそれに基づく事務組織の改革・整備を進めていくこと。	
	(評価した点)	評価理由等		各組織	—	
	[留意事項]			改善指示事項	—	
	(今後への期待)			改善指示事項	—	
No	②	教職員の人事考課の改正	評価	C	改善指示事項	
	(評価した点)	評価理由等		改善会議体	—	
	[留意事項]			改善指示事項	—	
	(今後への期待)			各組織	事務局（総務課） 職員評価においては、その実施目的を明確し成功事例等を踏まえながら制度導入を進めること。また、教員評価においては、現行のスケジュールに即り実施すること。	

ページ数
139

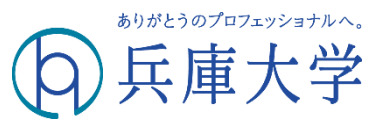
140

戦略目標	VII-2	内部質保証の確立	責任者	学長	関連部署等	学長室
No	KPI		改善活動の要否	改善会議体	改善指示事項	
③	PDCAサイクルによる内部質保証の実効化	評価	B	改善指示事項	—	
	(評価した点)	評価理由等		改善指示事項	—	
	[留意事項]			各組織	—	
	(今後への期待)			改善指示事項	—	

ページ数
153

戦略目標	VIII-3	財政基盤の強化	責任者	学長	関連部署等	事務部、学長室
No	KPI		改善活動の要否	改善会議体	改善指示事項	
④	寄付金事業の展開	評価	B	改善指示事項	—	
	(評価した点)	評価理由等		改善指示事項	—	
	[留意事項]			各組織	—	
	(今後への期待)			改善指示事項	—	

ページ数
154



発行日：令和4（2022）年5月

発行：兵庫大学・兵庫大学短期大学部 大学質保証委員会